

前橋市の東部、下大屋町・荒子町にまたがる上西原遺跡では、古代の役所の一部とみられる施設や寺院跡、そして隣接する集落跡などが発掘調査されました。

内容豊富な出土遺物のうち、寺院跡から見つかった瓦には「勢」と文字が記されていて、上野国分寺跡にも同じ文字瓦が認められることからその関連が注目されました。



上西原遺跡と 上野国分寺

瓦塔

寺院内で広範囲に出土した瓦塔は、初層を中心に部分的に残っていました。瓦塔は木造の塔の代わりに用いられたと考えられます。

役所にもなう寺院跡

上西原遺跡の寺院跡は一辺が約70mの溝で四角に囲まれ、その中央に瓦を用いた基壇建物がありました。瓦の中には「勢」と書かれた文字瓦があり、これは上野国分寺を造り始めた頃のものでした。そのほか、瓦塔や塑像の破片、瓦、釘などがたくさん見つかりました。また、溝や周辺の住居からは「寺」「経」などと墨で書かれた土器が見つかりました。

寺院跡の北側には大型の区画が調査され、同じ場所で建て替えをおこなっている大きな建物が並んでいました。その大きさから、寺院にもなう施設というよりは役所の機能を持ったものと考えられます。ここからは、銅製の丸鞆（ヘルムの飾り）、灰釉陶器、それに国司を示す可能性のある墨書土器「大、守」「大掾、目」などが見つかり、郡の役所（郡衙）における役人らの存在をうかがわせます。

上西原遺跡のように、直線的な溝で区画された古代の遺構は、これまでに佐波郡境町の十三宝塚遺跡や高崎市の綿貫遺跡などで見つっています。上西原遺跡と十三宝塚遺跡を比べてみると、その立地や寺院が備わっているという遺構のあり方、出土遺物がよく似ていることから、上野国における郡衙の特色を示していると考えられます。



寺院跡全景



基壇建物跡



位置図（国土地理院1/200,000「宇都宮」使用）

郡名を示す文字瓦

上西原遺跡の寺院跡からは勢多郡を表す「勢」と記された瓦が見つかりました。これは上野国分寺跡から出土する文字瓦と同じ型で押された文字です。

上野国分寺の創建期には「勢」のほかに、「山田」「佐位」などがあり、郡名あるいは郷名を示しています。また、上植木廃寺や十三宝塚遺跡でも出土している「測」「雀」なども佐位郡の測名郷、雀部郷を表しています。このような文字瓦の出土から、上野国分寺



文字瓦「勢」の3つのタイプ (右のものは裏字)

上野国分寺へ瓦を納める

ところで、この「勢」の文字をとまなう叩きで、文字が認められないものがあります。これは、叩きの状態からみて、最初は格子の叩きだけであったものが、上野国分寺へ郡をまとまりとして瓦を納めることが始まった時に、勢多郡を意味する「勢」が刻まれたと考えられます。

国分寺の造営は全国的になかなか進まなかったの、郡司ら地方の有力者に協力を求めました。奈良時代の歴史書である「続日本紀」には「上野国勢多郡の少領(郡司)で外従七位下の上毛野朝臣足人が、国分寺に知識物を献じ、外従五位下の位を授けられた」と記されています。郡司らにとって位が得られ、自分の利益にもつながったのです。この記事は、勢多郡が上野国分寺の創建期に瓦を負担したことに符合することから、知識物の中に「勢」の文字瓦が含まれていたのかもしれない。

さらに、十三宝塚遺跡、上植木廃寺の存在する佐位郡でもこの頃に有力な氏族が上毛野佐位朝臣を名乗るようになり、これも上野国分寺の造営に関連したものとみられます。とりわけ、佐位郡衙跡の一部とみられ

て造営するにあたって、郡・郷をまとまりとして瓦を分担させたことが考えられます。

上西原遺跡の「勢」の文字には3つのタイプがあり、そのうち1つは新田郡笠懸町の山際瓦窯跡で焼かれた瓦であることがわかっています。山際瓦窯跡は8世紀の中頃以降に上野国分寺へ創建期の瓦を供給した窯跡で、上西原遺跡と上野国分寺とは密接な関わりを持っていたと考えられます。

ている十三宝塚遺跡は、立地や遺構のあり方、出土遺物の内容などにおいて上西原遺跡と多くの類似点を見つけることができます。文字瓦は「佐」「測」「雀」などの郡内の郷名を示すものであり、佐位郡では郷をまとまりとして上野国分寺に瓦を納めたものと考えられます。このことは上西原遺跡で「勢」のみが出土するのと同様で、他郡の郷名は含まれていません。

これらのことから、上西原遺跡での文字瓦「勢」の出土は、勢多郡という郡を単位とした上野国分寺への瓦の供給と、その郡内での使用を裏付けるものであり、上西原遺跡が勢多郡における公的な施設であったことを物語っています。



上野国分寺跡出土の「佐位」(左)と「雀」(ともに裏字)



墨書土器「守、大」



奈良三彩小壺



塑像 (右上が鼻と耳)



銅製丸鞆

墨書土器

寺院の周辺からは「経」「寺」「福聖」などの墨書土器が出土しました。上西原遺跡の南西方向の遺跡群では、「寺」「院」「東院」のように施設を示す墨書や「田部」「伴」などの氏族を表す墨書が見つかっています。

また、付近の荒子小学校の校庭からは「識」と彫られた銅印が出土しています。これらのことから、このあたりに都庁や正倉(院)などの勢多郡衙の中心施設があったと考えることもできるのではないのでしょうか。

奈良三彩・灰釉陶器

寺院内で使用されたとみられる奈良三彩の小壺は、東側に隣接する住居跡から出土しました。表面の褐色・緑色の釉は色あせていますが、その形から8世紀後半に作られたとみられます。

また、上西原遺跡からは緑釉陶器のほか灰釉陶器も数多く出土しました。9世紀前半という古い時期の灰釉陶器をこれほどたくさん出土した遺跡は県内にはありません。

このように、一般の集落では見られない稀な陶器類が多数出土していることから、上西原遺跡の重要性がうかがえます。

塑像

土で造った仏像である塑像の鼻や耳、袖口などの体の部分や衣の一部が見つかっています。これらは、基壇建物の前面で金銅製品や鉄釘などとともに出土しました。鼻、耳とともに等身大であり、衣文の表現などもよく似ているので同一のものとみられます。

銅製丸鞆

役人らが腰にしたベルトの飾りで、大型区画の中の建物群から出土しました。隣接する川籠菅戸遺跡では石製のものが見つかっています。

問い合わせ先

群馬県教育委員会 文化財保護課
〒371-8570 前橋市大手町1丁目1番1号
TEL 027-223-1111 内線4697
史跡上野国分寺跡ガイダンス施設「上野国分寺館」
TEL 027-372-6767